

東方青龍

とうほうせいりゅう (Green Dragon)

伊勢崎市立あずま中学校

学校通信 NO224.

令和3年12月3日(金)



古紙回収へのご協力ありがとうございました

11月28日(日)に行われました古紙回収では、たくさんの古紙をお持ち寄りいただきまして、誠にありがとうございました。強い風に段ボールが煽られることもありましたが、大勢の皆さんのご協力により、無事終了することができました。会計処理が終わりましたので、ご報告いたします。

重量 32,070kg
収益 288,850円



回収した古紙の内訳は次のとおりです。

回収品目	今 回	前回(昨年12月)	前々回(昨年8月)
新 聞	14,700kg	11,440kg	14,440kg
雑誌・雑がみ	6,710kg	4,780kg	8,880kg
段ボール	9,980kg	8,040kg	11,080kg
紙パック	180kg	150kg	830kg
衣類	500kg		
合 計	32,070kg	24,410kg	35,250kg
収 益	288,850円	220,290円	319,090円

※学校から出た古紙も定期的に業者が回収していて、今回の合計に含まれています。

※収益には、伊勢崎市からの奨励金が含まれています。

この収益は、あずま中体育文化後援会会費に繰り入れ、部活動の活動費として活用させていただきます。



大きなトラックでも搬入

資源コンテナから運び出し

試験的に古着も回収しました

人権講演会開催

11月30日（火）5・6校時に体育館にて、群馬マジック（車いすバスケットボール）代表の高橋俊一郎さんをお招きして人権講演会を開催しました。

高橋さんは、高校3年生の部活動の練習中に転倒し、脊髄を損傷、両足の機能を失ってしまいました。その後、約8ヶ月の治療とリハビリ訓練により、社会復帰を果たしますが、入院生活中に、自分の体が自由に動かないことからの絶望感、屈辱感で自殺まで考えたそうです。でも、主治医や看護師さんからの温かい励ましを受け、生きることの意味や命の尊さを知りました。

やっと戻ることのできた学校は、車いすでの生活でした。その不自由な生活を支えてくれたのは、先生やクラスメイトの力強い心のこもった支援でした。

約8ヶ月の治療とリハビリ訓練に励む中、担当医師から紹介されたのが、地元車いすバスケットボールチーム。練習で仲間と汗を流しながら前向きに生きる目標を見つけたとのこと。

高橋さんは、民間企業に入社し、この頃、障害者福祉や社会福祉に関心をもち、アメリカ、ドイツ、イギリスなど、障害者の活動やシステムを学んだそうです。

1990年、全国身体障害者スポーツ大会福岡国体で、110mスラローム競技において日本記録で優勝。その後、この記録が世界記録に認定されたそうです。

2002年には、車いすバスケットボールジュニア選手権オーストラリア大会の日本代表選手団の監督を務められました。この時、香西宏昭選手と出会い、当時14歳の若さでその才能を見だし、日本チームに加えて連れて行ったのは高橋さんだったとのこと。その後、香西選手は大活躍をしました。今年開催された東京パラリンピックの銀メダルにも大きく貢献をしました。

現在、高橋さんの夢と目標は、「この日本が世界の人たちから経済大国ではなく、福祉大国と言われるような国にしたい。そして、地元の高崎市を日本一の福祉都市モデルにすること。」だとのこと。

講演中に、代表生徒が車いすを交えたバスケットボールを体験しました。車いすとボールの両方をコントロールするのは難しそうでしたが、見ていてとても迫力があり、大変楽しそうでした。

最後に、高橋さんから本校生徒に次のようなメッセージがありました。

<絶対にしてほしいこと>

- 「おはよう、こんにちは」など、あいさつをできるようになってほしい。
- 命を大切にできる人になってほしい。

<これからの人生の中で大切にしてほしいこと>

- みんなに優しい物、環境、設備、福祉をつくろう。
 - つらいこと、悲しいこと、苦しいことがあったら、家族や先生、友だちに相談してほしい。
- そして、聞いてくれたら、「ありがとう」と感謝を伝えてほしい。

今年の人権講演会は、高橋俊一郎さんの生き方を通して、命の尊さと自分の人生を前向きに生きることの大切さを学ぶことができました。



講師の高橋俊一郎さん



生徒と一緒に車椅子バスケットボールを実演



会場の密状態を避けるため、1年生はリモートにより教室で視聴しました

